

保育者養成校学生の語彙力・表現力・発想力を

見るための一考察

皆川 晶

An observation on Vocabulary, Expression, Imagination of students of Nursery School Training Course

Aki Minagawa

Abstract

Children can nurture their language, working their imagination, and developing their image. Vocabulary and Expression come to be important to the student's abilities of the nursery school in order to bring up their language. Therefore, the research to know their vocabulary and expression was made to those who will work as nursery school teachers by watching a picture, and finding some word in it. Based on the result of the research, to raise the quality as the nursery teacher the key method of teaching is studied.

Keywords: picture book, vocabulary, expressive power, power of idea, imagination

1. はじめに

子どもは家庭の中では家族から、保育所や幼稚園では保育者や友達から言葉の影響を受ける。また、絵本や紙芝居による児童文化財を通して、言葉や表現を獲得する。絵本や紙芝居の世界では日常生活では体験できない言葉に触れることができるので、語彙を増やすことができる。しかし、絵本や紙芝居に触れる時間よりも保育者と触れ合う時間の方が圧倒的に多い。つまり、生の言葉に触れる時間が多いということになる。子どもは保育者との会話から、保育者の言葉を模倣している。すなわち、保育者の言葉が重要になってくるのである。

『幼稚園教育要領』の領域「言葉」には、「日常生活に必要な言葉が分かるようになる」とともに、絵本や物語などに親しみ、言葉に対する感覚を豊かに¹⁾することをねらいとしており、「想像を巡らせたりするなど、楽しみを十分に味わうことによって、次第に豊かなイメージをもち、言葉に対する感覚が養われるようにすること」、「絵本や物語に親しんだり、言葉遊びなどをしたりすることを通して、言葉が豊かになるようにすること²⁾」とある。ここに示されているように子どもの言葉の世界を豊かにするには、絵本や物語を通して、あるいは、保育者として教育的な働きかけや活動に対する説明や介入、見守りや支援など多くの役割が必要となる。子どもの「言葉に対する感覚を豊かに」するには、「豊かなイメージ」

を言葉で表現できるように導いていくのも保育者としての役割である。

「豊かなイメージ」を言葉に表現できるような働きかけとしては、絵本に親しむことである。佐々木（1980）は、「幼い子どもが絵本を見はじめるのは、彼らが現実の生活のなかで見たものを、絵本のなかで発見する驚きからはじまる」とし、絵本は「言葉では決して表わしえない感覚的・直覚的形式としての」役割をもっていると述べている。また、絵本は絵だけのもの、絵と物語が載っているものとあり、絵本は言葉から内容を理解し、絵から内容を理解することができる。言葉から内容を理解できない子どもは絵を見て内容を理解し、また、絵の中から多くのイメージをわかせ、想像を巡らせていく。西川（2007）は、「絵本の絵は物語の進行を理解するためにのみあるのではなく、絵を見て楽しむこと自体が目的である」と述べ、中澤・中道・大澤・針谷（2005）は、「絵本の絵が幼児の物語理解ではなく、幼児の想像力に影響する」と述べている。

絵本の絵から子どもたちは「感覚的・直覚的」に内容をとらえ、想像力を高めていると考えられる。つまり、絵本を提供する保育者としても、子どもたちが「感覚的・直覚的」にとらえる言葉や表現、想像力を受け止め、理解することが重要であり、さらには保育者自身が豊かな言葉や表現力、想像力をもつ必要があると考える。

以上のことを踏まえて、保育者を目指している学生たちに、絵の中から「感覚的・直覚的」に言葉や表現を柔軟に想像できるかの調査をおこなった。この調査で現在の学生の語彙力や表現力を見ることにより、保育者養成に対する今後の指導における課題を探りたいと考える。

2. 方法

調査時期及び調査対象と項目については以下の通りであり、質問紙調査をおこなった。

① 語彙や表現力についての調査

1枚の絵を見て、その絵の中にある言葉・表現を書きだす。

2019年6月 本学保育科2年生 56名

② 新聞購読、読書についての調査

2019年6月 本学保育科2年生 56名

3. 調査結果と考察

① 語彙や表現力についての調査「絵の中にある言葉を探そう」

1枚の絵（筆者手描きの絵）を見て、絵から思い浮かぶ言葉を挙げた。挙げられた言葉や文の総数は3132個（言葉と文があるので個と数えた）であった。それらを①名詞 ②形容詞 ③動詞 ④オノマトペ ⑤文 ⑥①～⑤以外の言葉と6つに分類した。



① 名詞（複合名詞も含む） （ 総数 1803 語 ）

分類	言葉の種類	言葉 （ 回答した人数 ）
人物	9	男の子 (42) 女の子 (42) 人間 (10) 男 (2) 女 (2) お姉ちゃん (1) 弟 (1) こども (1) 人 (1)
動物・生き物	15	とんぼ (55) てんとうむし (52) せみ (52) ねこ (51) いぬ (50) みのむし (37) ちょうちょう (28) ちょうちょ (19) 虫 (9) 動物 (6) ちょう (5) 白いねこ (5) かぶとむし (1) 白猫 (1) 茶色いぬ (1)
体の部位	57	手 (22) 目 (22) 口 (20) 足 (19) 鼻 (18) 耳 (17) まゆげ (15) しっぽ (14) ひげ (11) 羽 (10) 肉球 (8) 指 (7) 顔 (7) 髪の毛 (7) 髪 (6) 触角 (6) 膝 (5) 腕 (4) ほっぺ (4) ほっぺた (3) 頬 (3) お腹 (3) 肘 (3) 背中 (3) あご (2) ふくらはぎ (2) 舌 (2) 爪 (2) お尻 (2) 太もも (2) 前髪 (2) 肩 (2) 毛 (2) 赤い目 (2) 関節 (1) 輪郭 (1) 茶髪 (1) 肌 (1) 腰 (1) 小指 (1) 親指 (1) 中指 (1) 人差し指 (1) 薬指 (1) 手のひら (1) 前足 (1) 後ろ足 (1) かかと (1) つま先 (1) でこ (1) 手首 (1) 足首 (1) ブルーアイ (1) 股 (1) 体 (1) 赤い触角 (1) 赤いほっぺ (1)
身につけるもの	31	帽子 (44) 靴下 (33) 靴 (31) ズボン (24) ワンピース (20) ポケット (17) リボン (13) 麦わら帽子 (9) えり (7) 服 (7) ヘアゴム (6) 黄色い帽子 (6) ゴム (5)

		洋服 (5) Tシャツ (5) キャップ (5) スカート (4) 黄色い服 (4) 青いズボン (4) 長袖 (3) ポッケ (2) 赤いリボン (2) 赤いゴム (2) シャツ (1) 半ズボン (1) つば (1) すそ (1) 丸えり (1) 丸いえり (1) トレーナー (1) 髪飾り (1)
植物・ 自然	25	木 (45) クローバー (22) 四つ葉 (19) 空 (17) 三つ葉 (16) 枝 (7) 草 (6) 地面 (5) 風 (3) 自然 (3) 花 (3) 草原 (3) 野原 (2) 原っぱ (2) 木の枝 (1) 水 (1) 芝生 (1) 葉 (1) 幹 (1) 植物 (1) 夏 (1) 秋 (1) 青い空 (1) 茶色い木 (1) 大きな木 (1)
生活用 品・道具	20	水筒 (49) リュック (27) 虫とりあみ (26) リュックサック (15) あみ (15) かばん (9) 虫とり (8) 虫あみ (5) ひも (3) 黄色いリュック (3) 物 (2) バッグ (2) 青い水筒 (2) ファスナー (1) 取っ手 (1) 持ち手 (1) ※リック (1) 色鉛筆 (1) 赤いひも (1) 青いひも (1)
色	27	黄色 (37) 茶色 (32) ピンク (28) 水色 (26) 赤 (25) 紫 (23) 緑 (20) 青 (19) 白 (18) 黄緑 (13) 黒 (9) 紫色 (9) オレンジ (8) 緑色 (7) 青色 (5) 赤色 (5) ピンク色 (5) ※※肌色 (4) 白色 (4) うす茶色 (3) 黄緑色 (2) 黒色 (2) オレンジ色 (1) こげ茶色 (1) うすだいたい (1) 桃色 (1) 黄 (1)
図柄・ 模様	17	星 (24) ハート (20) チェック (10) 丸 (8) 水玉 (3) 四角 (2) チェック柄 (2) ハート柄 (1) 星柄 (1) ハート形 (1) 三角 (1) 横じま (1) 模様 (1) 線 (1) まだら (1) 赤い星 (1) 黒い点 (1)
数字	7	3 (5) 2 (4) 4 (4) 1 (4) 5 (2) 6 (1) 7 (1)
状態	6	ツインテール (8) 2つ結び (7) 笑顔 (6) 横向き (1) 片足立ち (1) リボン結び (1)
その他	10	ゲー (2) パー (2) 遠足 (2) ピクニック (1) 飲み物 (1) お茶 (1) 重力 (1) 正面 (1) バンザイ (1) ハッピー (1)

※ 「リック」は「リュック」の表記間違いと推測する。

※※ 現在は「パールオレンジ」「うすだいたい」と言っているが、「肌色」と挙がっていた

ので、そのまま表記した。

名詞は 1803 語挙げた。その中でも体の部位に関しては 57 種類の言葉が挙がり、「爪」「足首」「手首」「つま先」「輪郭」「関節」、犬や猫の「前足」「後ろ足」など細かいところまで見ているのがわかる。

人物に関しては、「男の子」「女の子」だけではなく、「お姉ちゃん」「弟」と物語を想像していることがわかる。

背景として「空」「草原」「野原」、絵には描かれていない「風」「水」さらには、「夏」「秋」などの季節、「遠足」「ピクニック」などとイメージして想像力を膨らませている。

また、予想もしていなかった「重力」、気持ちを表す「ハッピー」という語も挙げた。

調査した全員が名詞を挙げ、平均 32.2 語で、64 語を挙げた学生を筆頭に、50 語以上を挙げた学生は 11 人いた。10 語以下は 2 名であった。

② 形容詞 (総数 87 語)

性質	言葉の種類	言葉 (回答した人数)
感情	2	楽しい (18) うれしい (9)
形	3	小さい (10) 大きい (7) 丸い (2)
量	2	多い (2) 少ない (2)
感覚	5	明るい (4) あたたかい (2) 冷たい (1) 暑い (1) かゆい (1)
味	1	おいしい (1)
程度	4	高い (4) 長い (2) 軽い (1) 重い (1)
判断	4	かわいい (7) おもしろい (3) カッコいい (1) 難しい (1)
色	5	赤い (2) 白い (2) 黒い (1) 茶色い (1) 青い (1)

形容詞は 87 語で平均 1.55 語しか挙げなかった。多く挙げた学生は 16 語で、全く挙げなかったのは 24 名であった。調査を行う際に、各品詞の説明はしたのだが、形容詞は少なかった。しかし、とんぼをつかまえている様子を「難しい」「楽しい」、あるいは、虫に刺されたことをイメージしたのか「かゆい」、水筒から飲み物を飲んだ気持ちを「冷たい」「おいしい」などと、イメージを膨らませた表現があった。

③ 動詞 (総数 223 語)

性質	言葉の種類	言葉 (回答した人数)
----	-------	---------------

動作	54	とぶ (35) はしる (17) ジャンプ・ジャンプする (16) すわる (13) わらう (12) おいかける (10) ぶらさがる (9) つかまえる (9) おく (6) とまる (6) とびはねる (5) あるく (5) はねる (5) のぼる (4) にげる (4) なく (4) まげる (4) もつ (3) てまねきする (3) よろこぶ (3) まねく (3) みる (2) おう (2) ほえる (2) きく (2) ほほえむ (2) ※とんでいる (2) かぶる (2) さげぶ (1) つかむ (1) あそぶ (1) うごく (1) たのしむ (1) なでる (1) はしゃぐ (1) とじる (1) きる (1) よぶ (1) にぎる (1) ふる (1) おぎなう (1) あげる (1) におう (1) かんがえる (1) つかまる (1) おちる (1) はなす (1) まう (1) にぎりしめる (1) たつ (1) ※はしゃいでいる (1) ※わらっている (1) ※とまっている (1) ※※からう (1)
作用	3	ゆれる (4) わかれる (1) かさなる (1)
存在	1	いる (1)

※ 補助動詞「いる」がついているが、そのまま動詞に分類した。

※※ 「からう」は「背負う」の福岡県の方言である。

動詞は223語挙げた。平均3.98語挙げり、形容詞同様、全く挙げなかったのは13名いたが、24語挙げた学生もいた。

絵を見たままの動詞だけではなく、とんぼをどのようにつかまえようかと「かんがえる」、自然の香りを楽しんでいるのであろうか「におう」、あるいは「はしゃいでいる」「わらっている」など補助動詞をつけることで、物語性のイメージを高めて表現している。

④ オノマトペ (総数 335 語)

分類	言葉の種類	言葉 (回答した人数)
擬音語	35	ワンワン (29) ミンミン (17) ニャンニャン (14) ニャーニャー (11) ニャー (10) ミーンミーン (10) ワン (10) ワーイ (6) ミーン (5) ニャン (4) ジージー (3) ヒュー (3) ブーン (3) ブンブン (3) ワー (3) キヤー (2) サーサー (2) ヒューヒュー (2) オイオイ (1) キャンキャン (1) クンクン (1) サワサワ (1) ザワザワ (1) シュツ (1) ニャアニャア (1) ピュー (1) ヒューン (1)

		ビューン (1) ピューン (1) ミーミー (1) ミーンミン (1) ワイワイ (1) ワーオ (1) ワーン (1) ワワワワ (1)
擬態語	50	ひらひら (43) ぴよんぴよん (19) ふわふわ (11) ばたばた (10) ぴょーん (8) にこにこ (7) ぴょん (6) ぼかぼか (5) わいわい (5) ばたばた (4) きらきら (3) さらさら (3) じりじり (3) ぶらぶら (3) ゆらゆら (3) るんるん (3) うきうき (2) ごくごく (2) すたすた (2) とことこ (2) どたどた (2) じー (2) そよそよ (2) ばたばた (2) ほわほわ (2) ゆらゆら (2) わくわく (2) かさかさ (1) きゃびきゃび (1) きりきり (1) くいっくいっ (1) しゅーん (1) ずーん (1) ずゅーん (1) そろりそろり (1) そわそわ (1) たたたた (1) たったった (1) ちよいちよい (1) てくてく (1) にっこり (1) ぴょーんぴよん (1) ひら (1) ふさふさ (1) ぶらーん (1) ぷらーん (1) ふりふり (1) ふわっ (1) ぼたぼた (1) まるまる (1)

オノマトペは 335 語挙がり、平均 5.98 語で、21 語挙げた学生もいたが、全く挙げなかったのは 9 名いた。犬や猫、せみの鳴き声や「サーサー」「ヒューヒュー」という風の音、「ワイワイ」「ワーオ」「うきうき」「にこにこ」「わくわく」という子どもの声や気持ちなど、イメージを膨らませた語が多く挙げた。ちょうちょうが飛んでいる様子を「ひらひら」、天気や暑さを表す「ぼかぼか」「じりじり」、また、「ビューン」「ずゅーん」「ぶらーん」など楽しいオノマトペが挙げた。

⑤ 文 (総数 283 文)

主語	文の 総数	文の 種類	文 (回答した人数) の一部を抜粋
女の子	48	30	「女の子がとぶ」(9) 「女の子が笑う」(4) 「女の子はとんでいる」(3) 「女の子がジャンプする」(3)
犬	38	17	「犬は茶色い」(10) 「犬がとぶ」(9) 「犬がジャンプする」(2)
猫	37	20	「猫は白い」(17) 「猫がすわる」(2) 「猫が呼ぶ」(1)
男の子	34	27	「男の子が走る」(3) 「男の子は追いかける」(2) 「男の子が笑う」(2) 「男の子が虫取りをする」(2)
帽子	18	9	「帽子がとぶ」(7) 「帽子がとんだ」(2)

			「帽子は黄色い」(2)
せみ	13	8	「せみが木にとまる」(3) 「せみが木にとまっている」(3)
ちょう ちょう	13	7	「ちょうちょうがとぶ」(5) 「ちょうちょうが3匹いる」(3)
とんぼ	10	6	「とんぼがとぶ」(4) 「とんぼは逃げる」(2)
みのむし	9	5	「みのむしがぶらさがる」(3) 「みのむしはぶらさがる」(2)
てんとう むし	8	7	「てんとうむしが木にとまっている」(2) 「てんとうむしがとまっている」(1)
木	7	3	「木は茶色い」(4) 「木は大きい」(1) 「木は長い」(1)
ちょうちょ	6	2	「ちょうちょがとぶ」(5) 「ちょうちょは小さい」(1)
水筒	6	3	「水筒は青い」(3) 「水筒が置いてある」(1)
虫	4	3	「虫がとぶ」(2) 「虫がとまる」(1)
空	4	2	「空は青い」(2) 「空が青い」(2)
ちょう	3	1	「ちょうがとぶ」(3)
ズボン	3	1	「ズボンは青い」(3)
靴下	3	2	「靴下は白い」(2) 「靴下がハートだ」(1)
髪	2	2	「髪が長い」(1) 「髪が短い」(1)
口	2	2	「口が開いている」(1) 「口が赤い」(1)
ほっぺ	2	1	「ほっぺが赤い」(2)
人	1	1	「人が笑う」(1)
首	1	1	「2人とも首がない」(1)
足	1	1	「足は6本ある」(1)
しっぽ	1	1	「しっぽが長い」(1)
花	1	1	「花が揺れる」(1)
天気	1	1	「天気がよい」(1)
リボン	1	1	「リボンは赤い」(1)
キャップ	1	1	「黄色いキャップがある」(1)
服	1	1	「服は黄色い」(1)
ポケット	1	1	「ポケットは黄色い」(1)
リュック	1	1	「リュックは黄色い」(1)
色	1	1	「4つ葉の1つだけ色が違う」(1)
模様	1	1	「模様が1つずつある」(1)

文は 283 文挙げたが、平均は 5.05 文で多く挙げたのは 16 文で、全く挙げなかったの

は6名いた。主語となったのは、男の子・女の子、犬やせみなどの動物や昆虫が223文で全体の78.8%であった。「男の子がとんぼをつかまえる」「女の子は楽しそうだ」「犬がジャンプする」「ズボンは青い」「帽子がとぶ」などのように、絵を見たままを表現するものが多かった。しかし、動きのない絵に関しては、「てんとうむしが木をのぼっている」という動きのある表現もあった。「せみがなく」「とんぼが逃げる」という、虫取りをしている情景がイメージできる文もあった。さらに、「花が揺れる」「帽子がふわふわとんでいく」という詩的な表現もあった。

⑥ その他 (①～④以外の品詞、主語と述語からなる文として成立していないものなど)

(総数 401 語)

主体となるもの	言葉の総数	言葉の種類	言葉 (回答した人数) の一部を抜粋
身につけるもの	77	58	「ハートの靴下」(6) 「紫の靴」(3) 「赤いリボンのまかれた帽子」(1)
生活用品・道具	47	38	「星のリュック」(3) 「水色の水筒」(3) 「茶色のあみ」(1)
自然・植物	47	24	「四つ葉のクローバー」(13) 「三つ葉のクローバー」(6) 「クローバーが2つ」(4) 「木にぶらさがる」(2)
ちょうちょう・ちょう・ちょうちよ	38	28	「ちょうが3匹」(4) 「ちょうちよが3匹」(4) 「黄色のちょうちよ」(2)
女の子	28	22	「女の子はツインテール」(3) 「女の子の服はピンク」(2) 「とんでいる女の子」(1)
猫	23	19	「ねこのひげ」(2) 「口をあけたねこ」(1) 「ねこの耳はピンク」(1) 「目の青いねこ」(1)
犬	22	11	「犬は茶色」(8) 「犬が1匹」(3) 「ちょうを追いかける犬」(2)
身体	19	19	「手を広げる」(1) 「水色の目」(1) 「両足をあげる」(1)
男の子	18	12	「とんぼをつかまえる男の子」(3) 「男の子の服は黄色」(3) 「男の子のズボンは青色」(2)
男の子・女の子の気持ち	17	13	「やったー」(4) 「まてー」(2) 「わぁーすごい」(2)
とんぼ	11	9	「とんぼが1匹」(3) 「赤い目のとんぼ」(1)

虫	1 1	7	「虫をつかまえる」(3) 「虫が7匹」(1)
てんとうむし	9	8	「てんとうむしの足は6本」(2) 「てんとうむしが1匹」(1)
人	9	8	「人の手は2本」(1) 「人が2人」(1)
せみ	7	5	「せみが1匹」(2) 「せみの足は6本」(2)
状態	7	4	「きれい」(4) 「楽しそう」(1) 「たくさん」(1)
みのむし	5	5	「みのむしが1匹」(1) 「ぎざぎざのみのむしのみの」(1)
絵を見た人の疑問	4	4	「子どもだけなのか」(1) 「2本だけしか咲いていなかったのか」(1)
図柄・模様	1	1	「赤と青のチェック」(1)
動物	1	1	「動物が1匹」(1)

①～④の品詞に当てはまらない言葉、あるいは、主語と述語からなる文として成立しないものをここにまとめた。興味深かったのは、「子どもだけなのか」というこの絵を見て浮かんだ疑問が挙げたことである。この調査をする際に、絵を見て思い浮かんだ言葉をすべて挙げるように指示したので、単純にこのような疑問が浮かんだのかもしれない。絵の中に子どもだけしか登場していないので、保育者としての視点から、「保護者や保育者はいないのか、子どもだけで大丈夫なのか」という心配する気持ちが宿ったと考えられる。

「わーとんぼだ」「つかまえて」「あと少しだ」「がんばれ」「やったー」など男の子・女の子の気持ちが表現されていて、これらの言葉から自然の中で虫取りをしている男の子と女の子の物語を描いていることが推測される。

2 新聞購読、読書についての調査

① 新聞を読みますか。

回数	人数
毎日	0
週に4～6日	0
週に2～3日	0
ほとんど読まない	10
まったく読まない	45
無回答	1

無回答を除く調査に答えた全員が、新聞を「ほとんど」「まったく」読まないと回答した。入学当初から、社会人として保育者としての知識を養うために、新聞を読むこと、読

まなくとも見出しだけでも見ることを指導していたのだが、定期的に読むという結果にはつながらなかった。

② 電子版の新聞を読みますか。

回数	人数
毎日	3
週に4～6日	2
週に2～3日	2
ほとんど読まない	9
まったく読まない	39
無回答	1

電子版の新聞のほうは、12.5%の学生が定期的に読んでいる。しかし、85.7%が「ほとんど」「まったく」読んでいない。学生にとっては身近であるスマートフォンを使って、簡単に読むことができるが、やはり新聞を読む習慣にはつながらないようである。

③ 読書をしますか。

	はい	いいえ	無回答
人数	11	44	1

78.6%が読書をしていないことがわかった。入学当初の調査(皆川、2018)では、40%が「読書が好き」と答え、「読書は嫌い」と答えたのは24.6%であり、「本の中の世界に入っていくのが楽しい」「知識を身に付けることができる」という意見もあったので、読書の魅力は理解していると推測できるが、実際に読書をするという行為にはつなげていないようだ。

④ ③で「いいえ」と答えた人は、なぜ読書しないのですか。(複数回答可)

理由	人数
本を読むのが嫌い	0
特に読みたい本がない	18
文字を見たくない	1
読むのが面倒くさい	2
読書をしたいが時間がない	18
読書に興味がない	13
読書をしてても特に得るものがない	1

読書は疲れる	1
--------	---

入学当初の調査（皆川、2018）では、読書を「まったくしない」と答えたのは44.6%であり、読んでいる学生であっても「1か月に2時間くらい」「1週間に1時間くらい」など習慣的に読書をしていなかった。入学当初の調査と今回の結果から総合的に判断すると、「特に読みたい本がない」「読書に興味がない」と答えた学生が多いことから、読書習慣の乏しさにより、読書の必要性にまだ気づいていないと推測される。

⑤ 雑誌やマンガは読みますか。

	はい	いいえ	無回答
人数	18	37	1

多くの学生が雑誌やマンガを読んでいると予想していたのだが、読んでいる学生は32.1%であった。音楽やファッションに興味のある年代であるので、雑誌から情報を得ているのだと思っていたのだが、意外にも雑誌を読んでいる学生は18名中15名と少なかった。また、読んでいる学生も「1週間に2冊」と頻繁に読んでいるのは1名で、あとは「1か月に1冊」「1か月に2冊」が3名ずつであった。

マンガを読んでいるのは18名中9名で、「1週間に5～6冊」が2名、ほかは「1か月に数冊」程度であり、マンガを読んでいる学生も少ないことがわかった。

今回の調査で、紙媒体である新聞、本、雑誌、マンガなどを読んでいないことがわかった。学生たちは、手軽で身近なスマートフォンなどの電子媒体から情報を得ていると考えられる。

⑥ 自分に語彙力があると思いますか。

	はい	いいえ	無回答
人数	12	42	2

21.4%が「はい」と答えた。「いいえ」と答えたのは75%で、「まとめる力がない」「読書をしてこなかったため語彙力が乏しい」「実習のとき、子どもへ声掛けするときに、言葉のバリエーションがなかった」「新聞を読まないから」「話しても通じないことが多い」という理由であった。

⑦ 自分に文章における表現力があると思いますか。

	はい	いいえ	無回答
人数	21	34	1

37.5%が「はい」と答えた。「いいえ」と答えたのは60.7%で、「書きたいことがうまく書けない」「文章をまとめる力がない」「まとめるときにより適切な言葉があるはずなのに、それを見つけられない」「自分なりの文章を書けない」という理由であった。

4. まとめ

子どもたちの「言葉が豊かになる」こと、「想像する楽しさを味わう」ことを支援するには、まず保育者自身の語彙力や表現力を磨くことが重要である。保育者を目指している学生たちに関わる際に、学生自身が使う言葉の乏しさを感じる。そこで、読書の苦手な学生にとっては親しみやすい絵本を読むことを勧めている。多くの絵本に触れてもらう目的で、学生たちは絵本を読んだ感想や分析を書く絵本ノートを作っている（皆川、2017）。今回の調査では挙げた言葉と文の数と、絵本ノート作成にあたって1年間で読んだ冊数との関連性もみたかった。1年間で読んだ絵本の平均は41.4冊であった。調査で挙げた言葉と文の総数は3132個で、一人平均55.9個挙げた。一番多くの数を挙げたのは121個で、この学生の読んだ絵本は42冊であったが、1冊1冊を丁寧に読み、実際に読み聞かせをした時の子どもの反応も書いていた。次に多かったのは113個であったが、この学生は絵本を4冊読んだ後、絵本ノートの提出はしなかった。90個挙げた学生は、絵本を100冊読み、内容や分析も丁寧にしていて、オノマトペは21個、文は15文挙げていた。82個を挙げた学生は3名いたが、いずれも絵本は20冊、29冊、31冊しか読んでいなかった。他に、絵本を100冊読んだ2名の学生は、68個、69個を挙げており、平均の55.9個を12～13個上回っていた。よって、絵本を多く読んだ学生はあまり読んでいない学生よりも語彙力や表現力が勝る、つまり多くの語彙を挙げると予想していたが、今回の調査では、絵本を読んだ数との関連性があるといえる結果には至らなかった。

学生自身の「言葉を豊かに」するために、普段から文字に触れること、つまり新聞などを読むこと、「想像する楽しさを味わう」ために絵本、絵からイメージする力を雑誌やマンガなどから養ってほしいと願っている。しかし、今回の調査では、新聞、本、雑誌、マンガなど紙媒体の文字に触れていないことがわかった。新聞や本の文字に触れていないことが、少なからずも語彙力や表現力の自信のなさにつながっているのではないかと推測される。

今回の調査では、絵をすみずみまで見て、さらには絵から物語を想像し、イメージした言葉が多く挙げた。それは、1年生のころから多くの絵本に触れたことにより、絵からイメージを膨らませることが多少は身につけていると推測される。

言葉を豊かにし、想像力を養うためにも、ただ絵本を読むという行為だけを勧めるのではなく、絵本の中に込められている世界を想像し、また、そこに書かれている言葉や表現の楽しさ、美しさを深く理解できるように指導していくことが必要である。今回の結果を踏まえて、保育者としての資質を高めるためにも、現場で活躍できる保育者を養成するための指導のあり方や道筋を探る一つの手立てとしていきたい。

謝辞

本研究にご協力いただいた学生の皆様に心より感謝いたします。

参考文献

- 1) 文部科学省 (2017) 『幼稚園教育要領』「第2章 ねらい及び内容」「言葉」「1 ねらい」
- 2) 文部科学省 (2017) 『幼稚園教育要領』「第2章 ねらい及び内容」「言葉」「3 内容の取扱い」
- 3) 佐々木宏子 (1980) 「絵本—児童心理学からの研究視点をさぐる—」『児童心理学の進歩—1980年版』金子書房 pp. 309～330
- 4) 西川由紀子 (2007) 「子どもにとっての絵本の絵の役割—絵本『はじめてのおつかい』のおはなしつくりのデータ分析—」立命館文学 第599号 pp. 62～70
- 5) 中澤潤・中道圭人・大澤紀代子・針谷洋美 (2005) 「絵本の絵が幼児の物語理解・想像力に及ぼす影響」千葉大学教育学部研究紀要 第53巻 pp. 193～202
- 6) 皆川晶 (2018) 「昔話の認知度について—アンケート調査の分析を中心に—」近畿大学九州短期大学紀要 第48号 pp. 54～64
- 7) 皆川晶 (2017) 「『絵本ノート』作成における—考察—保育科学生における絵本100冊読みへの挑戦、そして成果と課題—」近畿大学九州短期大学紀要 第47号 pp. 85～100
- 8) 神垣彬子, 中井靖 (2011) 「保育者養成における子どもの『ことば』を育てる視点の理解についての研究」川崎医療短期大学紀要 第31号 pp. 69～73